

羅針盤

令和4年度第5号(通算342号)
令和4年8月31日(水)発行
岡山県総合教育センター 企画部
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

夏休み明けの学校生活再開に向けて～新たな不登校の児童生徒を生まないために～

いよいよ夏休みが明け、2学期がスタートします。2学期のスタートにあたり、気がかりな児童生徒はいませんか。夏休みのような長期休業の後は、新たな不登校の児童生徒が生まれやすい時期でもあります。新たな不登校の児童生徒を生まないために、学校全体で積極的に不登校防止対策に取り組んでいきましょう。



【新たな不登校を生まない取組】

不登校への対応は、全ての児童生徒を対象とした「未然防止」と、欠席し始めた児童生徒への「初期対応」の取組を行うことが必要です。

未然防止の取組

予防的・開発的な生徒指導も大切です。児童生徒が学校で安心して過ごせる「居場所づくり」を進め、お互いに認め合い支え合うような「絆づくり」につながる場面を意図的に設定していきましょう。

居場所づくり

児童生徒が安心して、自己存在感や充実感を感じられる場所を**教職員**が**つくる**。

- ・学級の中で守るべきルールを全員が納得の下で徹底する(いじめや暴力を許さない)。
- ・対人関係のトラブルが起きないようにソーシャルスキル教育を行う。



絆づくり

主体的に取り組む協働的な活動を通して**児童生徒****自らが絆**を感じ取り、紡いでいく。

- ・全ての児童生徒が活躍できる場面を経験する中で、「自己有用感」が高まり、互いを大切にする集団づくりにつながっていく。
- ・他者と協働して一つのことをやり遂げる活動を通して社会性を身に付け、児童生徒間の心の結び付きや信頼感を高めていく。

初期対応の取組

初期対応の基本は、「**児童生徒の変化(児童生徒の出すサイン)に気付くこと**」です。健康面、学習面、人間関係面等、児童生徒たちの様子に変化がないか、しっかり観察しましょう。もし「おかしいな?」と思ったら、児童生徒の心や気持ちをつかむように声をかけたり、家庭での様子を保護者から聞いたりして、児童生徒の悩みや不安を把握することに努めます。そして、もし気になる児童生徒が欠席をした場合には、以下のようなアプローチで児童生徒の状況を的確に把握し、一人一人に合った対応を検討、実施していきましょう。

適切な登校アプローチ



本人の状況を確認する

- ・病状や医療機関の受診状況、その日の過ごし方を尋ねるなどして、児童生徒の様子を把握することが大切。
- ・休んでも安心して登校できるよう、担任等が電話で声掛けをする。



本人の状況を再確認する、場合によっては家庭訪問を行う

- ・家庭訪問などを行い、「君のことを心配しているよ。」「待っているよ。」などの気持ちを伝え、安心して再登校できるように支援する。



家庭訪問を行い、本人と話をして様子を確認するとともに、保護者とも最近の様子について話をする

- ・児童生徒の心身のバランスが崩れている可能性がある。何らかの悩みを抱えているかもしれないので、「困っていることはない?」「体調は悪くない?」などと温かい声かけを行い、じっくり寄り添う。
- ・保護者にも児童生徒の様子が心配であることを伝え、家庭での様子を聞く。
- ・管理職に報告し、支援チーム会議の開催など、学校としての対応を検討する。

参考・「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」(2019年)岡山県教育委員会

・「新たな不登校を生まないための不登校対策資料 未然防止・初期対応 Q&A28」(2014年)岡山県教育庁義務教育課生徒指導推進室